

イチゴ観光農園、連日盛況

埼玉・川越市 君島つぐみさん

「経営安定させ地域に恩返しを」

【埼玉】川越市の君島つぐみさん(29)は、2024年4月にイチゴで独立就農した。運営する観光農園「いちごハウスきみしま」では、「紅ほっぺ」や県オリジナル品種「べにたま」など4品種を扱う。



君島さんは大学卒業後に公務員となり、農業関連の部署で働いた。仕事で出会った熱意ある農家たちの存在もあり、転職を決断。イチゴ生産者のもとで2年半研修を受け、「自分

で観光農園を開きたい」と考えるようになった。

借りられる農地が見つからないなど苦労もあったが、多くの人から支援を受け、念願の観光農園を開くことができた。お世話になった研修先の師匠や地元農業委員会の委員、ハウスを貸してくれた地主など、今でも氣に

して声を掛けてくれる。君島さんは「本当にありがたいですね」と感謝する。

観光農園は好調で、連日予約客でいっぱいになる。イチゴが映えるよう園内のレイアウトを工夫したり、SNSを積極的に活用した結果、取材中

も電話が鳴りやまないほどの盛況ぶり。君島さんは「お客さんの喜ぶ顔を直接見れるのが観光農園の魅力」とうれしそうに

語り、「まずは経営を安定させ、将来的には規模拡大して、この地域に恩返ししていきたい」と今後の目標を笑顔で話す。